

千葉県立野田看護専門学校 学校関係者評価実施報告

千葉県立野田看護専門学校では、「令和4年度自己点検・自己評価結果概要」をもとに、学校関係者評価を実施したので、以下のとおり報告します。

- 1 実施年月日
令和5年3月13日（月）～令和5年3月31日（金）書面開催による。
- 2 学校関係者評価会議出席者
近隣教育機関、近隣保健医療施設、実習施設、有識者（非常勤講師）、看護職能団体、卒業生に評価を依頼しました。
- 3 実施内容
自己点検評価の結果及び「授業評価」のとりまとめを報告し、評価及び意見をいただきました。
- 4 学校関係者評価・意見
 - 1) 自己点検・自己評価
大項目ごとの評価は、概ね適切あるいはほぼ適切との評価をいただきました。
主な御意見は以下のとおりです。

大項目	主 な 御 意 見 等
I 教育理念・教育目的・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念や教育目的などは日々の教育や学習で忘れがちになると思われるので、繰り返し提示することが必要と考えます。 ・教育理念・教育目的、教育目標は学生が立ち戻るものとして意図的に伝えていかないと浸透が難しいと思う。 ・国家試験がある中で卒業時の到達状況を把握するのは難しいと思われるが、コロナ禍での臨床実習の学習到達度の分析は必要と思います。 ・コロナ禍という特殊な状況が続き分析/評価は困難であると思われませんが、効果的に教育現場へフィードバックできることを期待します。 ・数字では昨年同様ではあるが、コロナが終息に向かい、今までとは違った状況分析が行われるようになるのかと思います。それを踏まえて教育目的等考えていく部分も出てくるのかと感じました。 ・学生への理念、目標の理解・浸透により、野田看護専門学校の学生の特性としてさらに深まることを期待します。 ・学生に教育理念及び目標を浸透させるのは難しいと思いますが、理念・目標を意識する志向が育つと組織人として成長しやすいので期待しています。
II 教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習先の都合などもあり、対応する教員や学生も必ずしも満足できない状況があると考えます。コロナ禍の状況では特にそう思います。 ・新カリキュラム開始と修正、新施設開拓など教育そのものの以外にも、学生からの評価に対する不満やハラスメントの問題など、教育以外のご苦勞も多いように思われます。更なる教育体制の整備が必要であると感じます。 ・時代により学生の様子も要求も変わり、コロナの影響を踏まえた教育課程の見直しが必要になってくるのではと思っています。 ・カリキュラム改正や新型コロナの影響による体制整備など、引き続き体制整備が必要だと感じました。
III 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員間であれば他科目との進捗状況を鑑み講義を進めることができるが、非常勤では難しいところがある。また複数人で講義することがあり、講義の一貫性が欠如する難がある。 ・各個人のスキルやレベルに差はあっても、情報共有をするなどの改善策は取られているように感じます。多様性を求められ大変ですが、今後も継続して最善策を模索しつつ、効果的

	<p>にフィードバックしていけると良いと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と学生が良好な状態にあることがわかります。今後も学生にあった教育環境の整備をしていってください。 ・外部講師、実習対応と学生への個別指導や対応などに加え、新型コロナの影響による対応、カリキュラム改正など教員の皆さんの業務負担の多さを感じます。人員不足も要因ではありますが、業務改善や体制整備などが必要だと感じました。
IV 経営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化の対応やネット環境の充実などは必要と思います。費用対効果がある所から行うことが重要かと思えます。 ・施設設備や教員の不足等、十分ではない現状の中で最大限の努力をされているように感じられます。設備面は優先度を付けて補修/改修、人員確保は(難しい問題とは思いますが)待遇改善や募集方法の検討等で欠員補充ができるよう祈っております。 ・ハード面、ソフト面ともに課題にあがっていたとおり、教育、採用の体制強化と修繕計画が引き続き必要だと感じます。 ・校舎の老朽化による不具合の改善やIT化推進のためにwi-fi導入等が実現することを願います。 ・開校から27年たち歴史とともに文書も増していると思われる。電子化を進めていくことはいかがでしょう。コロナ禍となり、Webを使っていくことが社会に増えました。Web対応のできる環境も必要だと考えます。
V 入学	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校は進学率を上げるために短大や大学を推薦することが多く、専門学校への進学者が少ない傾向がある。その対応として直接高校へ説明に行ったり、当日行われている講義を、案内担当者と共に授業参観を随時行っている学校もあります。 ・大学進学が増加しており、なかなか厳しい現状と察します。その中でも努力していると感じられますが、野田看護専門学校としての独自性をもっとアピールした募集方法の検討が必要かと思われれます。 ・新型コロナの影響による説明会や見学会の開催形態の変更、また、少子化や看護系大学の増加など背景によるものと考えられるが、貴校は地域とのつながりや実践力が特徴であり強みだと感じています。課題と対策については相違ありません。 ・ホームページは、他校と比べると視覚的に訴えるものが少なく思えます。 ・今後学生募集はますます難しくなっていくことが予測され、戦略も大事だと思う。
VI 卒業・就業・進学	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策に学生間の協調が重要かと思えます。成績の良い学生が悪い学生の教育を行うグループ学習が効果的かと思えます。 ・学生の個性も多様化し、教員は日々の業務に追われる状況での個別支援は困難な状況かと思われれます。その中でも、教員の皆様は可能な範囲で対応されているのではないかと感じます。 ・課題と対策の必要性についての内容に相違はないと感じます。
VII 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であり、なかなか社会貢献しにくい状態であり、意見に記されている状態かと思われれます。 市の避難所として避難所マニュアルや備品の貯蔵など市と共に整備しているかと思えますが、その充実や管理を適切に行って欲しいと思えます。 ・コロナが緩和されたことで、(可能な範囲となるでしょうが)地域社会との交流が積極的に行われるよう努めて頂きたいです。今後に期待しています。 ・可能な範囲での交流は十分にあると感じました。今後の新型コロナにおける対応の変化に応じて地域との交流を再開していければよいと思えます。 ・コロナ禍であり、難しかったと思えます。
VIII 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・教育と研究では前者が優先されます。その教育のための準備以外にそれに関連する雑用が多々あるのが現状です。雑用は立場が上になればより顕著です。なかなか研究まで手が回らないことは理解できます。 ・コロナ禍、人員不足による業務過多から、せつかくの研究制度が活用できていないことは残念に思えます。コロナ禍ならではの研究材料があると思えますので、それを活用できたら良い

	<p>のではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人員不足や教員の業務負担の増加で十分な取り組みができなかったようですが今後の課題への取り組みにより改善されることを期待しています。 ・ 人員が充足し、余裕をもって研究活動にも取り組めることを願います。多忙を極める中でも研究に取り組む姿勢が学生たちに伝わることも期待します。 ・ 教員数の問題もあってなかなか難しいと思います。以前に比べ先生方に余裕のなさを感じます。
--	--

2) 授業評価

- ・ 国家試験もあるため各教員は質の高い講義を行う使命感は持っているかと思えます。学生の能力の多様化で小項目 12 にあるように個々の学生の能力に対応できないケースがあるかと思えますが、その経験は今後の対応に反映できれば良いかと考えます。学生の多様化に伴い幅広い相談内容になるかと思えます。その相談に対応する必要があるため教員の時間が使われます。このことも研究時間が取れない原因の一つになっていると考えます。学生の授業評価はあくまでも参考程度で、出来る範囲内でフィードバックすれば良いと思えます。インシデントに関しては、事例の分析と対策を行う必要があると思えます。生命に関連する職種であることから危機管理を徹底し、インシデントの症例を蓄積して今後の危機管理に活用するべきと思えます。
- ・ 総じて高い満足度は得られており、教員の皆様の質の高い教育水準が反映されている結果かと思えます。
- ・ コロナの影響を踏まえ、コロナ対応をした授業が行われていたと感じました。社会状況や流れに対応した授業を作り上げていくのは大変かと思えますが、これからも学生のために創意工夫を凝らした授業をお願いします。
- ・ コロナ禍で過去とは違う授業や実習の形態が求められる中、先生方の努力によって学生が育っている様子が見えてきました。病院に迎える新人も実習経験が少ない状況を考慮しながら教育を進めているところです。
- ・ 概ね高評価で先生方の努力のたまものと思いました。臨地実習の教員評価が高く、知識や技術だけでなく、自ら考えて行動できる人材育成が実践されていると感じました。
- ・ 回収率が低いことが残念に思いました。学生の意見や感想等自由回答での生の声が聴けるとより評価しやすく改善しやすいのではないかと思います。

3) その他

- ・ このような評価を行ったので、これらの意見を承知し、来年度の教育、研究の参考とし、さらなる改善を行う糧とすることが重要かと思えます。
 - ・ 業務過多や設備不良など十分とはいえない環境の中で、質の高い教育と指導を目指し看護師の育成に携わっている教員の皆様には頭が下がる思いです。社会情勢や世代の変化により教育方法も変えていかざるを得ない状況でしょうが、試行錯誤を重ねながら今後もより良い教育現場であり続けられるよう期待しております。
 - ・ 令和 4 年度は、コロナ禍での新カリキュラム導入があり、3 年間でコロナ禍で過ごした学生さんたちを送り出す年度となりました。そのような状況でも、これからの医療・看護を担っていく人材育成が実践されていることに敬意を表したいと思います。
- 附属の病院を持たない県立校としては、卒後の継続教育と連携していくことは簡単ではないと思えますが、ホームカミングディ等で工夫をされていることも素晴らしいと思えます。
- 看護専門学校での 4 年制化も推奨される中、課題も多いと思えますが、貴校の教育理念に則り、より充実した看護基礎教育となることを願っております。同時に、真摯に教育にご尽力くださっている先生方のご負担が軽減することも心より願っております。
- ・ 実習では、再実習が増えている。コロナの影響もあるかもしれないが動向を見守りたい。

4 終わりに

今後も、学校関係者評価会議を継続して開催し、学校外部からの評価をいただく機会を設けながら、学校運営全般の質の向上を図ってまいります。